

菅谷高畑遺跡 2

— 開発道路築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2 0 1 9

高 崎 市 教 育 委 員 会
有限会社 毛野考古学研究所

菅谷高畑遺跡 2

— 開発道路築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2 0 1 9

高 崎 市 教 育 委 員 会
有限会社 毛野考古学研究所

例 言

1. 本書は開発道路築造工事に伴う菅谷高畑遺跡2の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は群馬県高崎市菅谷町字高畑824番1、字村前834番1・3に所在している。
3. 本調査及び整理作業は、土地所有者・高崎市教育委員会・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至るまでの経費は、土地所有者に負担していただいた。
5. 発掘調査は、志村哲・春里桃子（有限会社毛野考古学研究所）が担当し、遺構測量・空中写真撮影を小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
6. 発掘調査と整理作業は、平成30年10月22日から平成31年4月30日までの期間で実施した。
7. 本遺跡は高崎市教育委員会の遺跡番号で「749」である。
8. 本書の執筆については、Ⅰを高崎市教育委員会、Ⅱ～Ⅴを春里桃子が担当し、編集を宮本久子（有限会社毛野考古学研究所）が行った。出土遺物に関しては井上太（有限会社毛野考古学研究所）・宮本・春里が担当した。
9. 本書に係る資料は高崎市教育委員会が保管している。
10. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。

【発掘調査】岡庭秋男 小嶋明子 勅使川原幸枝 永井述史 萩原秀子
【整理作業】内田恵美子 小野沢絹子 樺澤美枝 合田幸子 小谷貴世美 関小百里 武士久美子
田村健志 永島美和子 伴場りく 深谷道子
11. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏にご協力を賜りました。記して感謝を申し上げます。（敬称略・順不同）

伊藤明宏 積水ハウス株式会社高崎支店 金子ハウス

凡 例

1. 挿図中の北方位は座標北を、断面図の水準数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 遺構略称は、竪穴建物跡：SⅠ、土坑：SKとした。
3. 本書掲載の第1図は高崎市発行1/2,500『高崎市都市計画基本図』、第3図は国土地理院発行1/25,000『前橋』・『下室田』を一部引用し、改変した。また、第3図の遺跡範囲は『菅谷遺跡群1』（田辺2015）に基づくものである。
4. 本書ではテフラ（火山噴出物）の呼称として次の略号を用いる。

A s - B：浅間B軽石（天仁元年：1108年）、H r - F A：榛名-二ツ岳渋川テフラ（6世紀初頭）、
A s - C：浅間C軽石（3世紀末）、A s - Y P：浅間-板鼻黄色軽石（約14,000年前）
5. 遺構および土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2014年36版）に準拠した。
6. 全体図を含め遺構図の縮尺は1/60を基本とし、挿図中にスケールを付している。カマドに関しては縮尺1/30とした。遺物実測図の縮尺は1/4とし、挿図中にスケールを付し、遺物写真も同様の縮尺とした。
7. 本文中や表における計測値は、残存値を（ ）、推定値を[]で表記した。

目 次

例 言・凡 例

目 次・図版目次・表目次・写真図版目次

I	調査に至る経緯	1
II	地理的・歴史的環境	2
	1. 地理的環境	2
	2. 歴史的環境	2
III	調査の方法と経過	5
	1. 調査の方法	5
	2. 調査の経過	5
IV	基本層序	5
V	検出された遺構と遺物	6
	1. 遺跡の概要	6
	2. 竪穴建物跡	6
	3. 土坑	7
	4. 遺構外出土遺物	7

写真図版

報告書抄録

奥付

図版目次

第1図	調査区位置図	1	第6図	SI-1・SI-2(1)	9
第2図	遺跡の位置	2	第7図	SI-2(2)・SI-3(1)	10
第3図	周辺の遺跡	4	第8図	SI-3(2)・SK-1・SK-2・出土遺物	11
第4図	基本層序	5			
第5図	調査区全体図	8			

表目次

第1表	土坑一覧表	12	第2表	出土遺物観察表	12
-----	-------	----	-----	---------	----

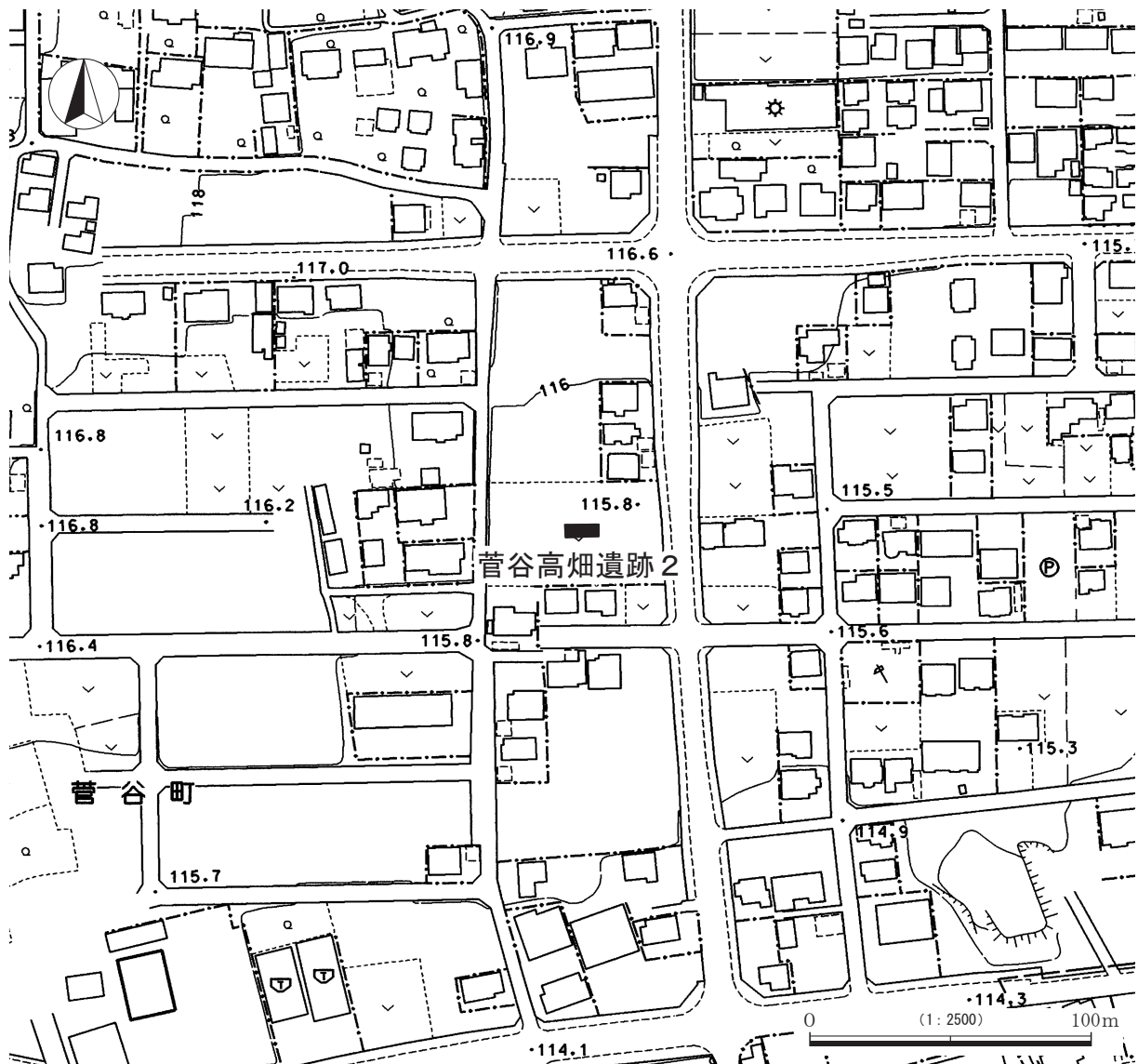
写真図版目次

PL. 1	調査区全景	PL. 2	SI-3全景
	SI-1全景		SI-3土層断面
	SI-1貯蔵穴遺物出土状態		SK-1全景
	SI-1掘り方全景		SK-2全景
	SI-2全景・遺物出土状態		出土遺物
	SI-2貯蔵穴遺物出土状態		
	SI-2掘り方全景		

I 調査に至る経緯

平成30年7月、土地所有者から、高崎市菅谷町において計画している分譲住宅および長屋住宅建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である菅谷高畑遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年7月31日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年8月24日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、平安時代の集落跡を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることと合意した。なお遺跡名については「菅谷高畑遺跡2」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成30年10月4日に土地所有者・有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定を締結、平成30年10月7日に土地所有者と民間調査機関有限会社毛野考古学研究所との間で契約を締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。



第1図 調査区位置図

Ⅱ 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

菅谷高畑遺跡 2 は、群馬県高崎市菅谷町字高畑に所在する。菅谷町は高崎市北東部に位置し、北西方向に榛名山、北東方向に赤城山を望む。

本遺跡は、火山山麓扇状地である相馬ヶ原扇状地の扇端部に立地する。相馬ヶ原扇状地は、榛名山の山体崩壊に伴う「陣場碎屑なだれ」の発生（約 1.6 万年前）に由来するものであり、A s - Y P 降灰（約 1.4 万年前）までの間に扇状地の大部分が形成されたと考えられている（早田 1990）。また、相馬ヶ原扇状地の扇央部から扇端部では、A s - Y P の降灰後に河川性の堆積物が認められる¹。この直下で諸磯 b・諸磯 c・十三菩提式期の土器を含む遺物包含層が検出されていることから、縄文時代前期末葉頃に相馬ヶ原扇状地の形成がほぼ終了したことが指摘されている（伊藤 2018）。その後扇状地では、地形の傾斜に沿って南東方向に流下する中小河川が発達し、扇頂部や扇端部で谷底平野が形成された。本遺跡周辺では北東に染谷川、西に天王川が流下するほか、既存の調査で埋没河川（谷）の存在が明らかとなっており²、これらの河川が形成する谷地形が、帯状を呈する微高地と入り組む様



第 2 図 遺跡の位置

相となっている。本遺跡は、谷地形に隣接する微高地の縁辺部に位置し、標高は現地表で約 116 m を測る。遺跡地周辺の現況は南方の低地に水田が広がる一方で、近年まで畑地として用いられてきた菅谷町南部の微高地では宅地化が進んでいる。

2. 歴史的環境

上述した通り、本遺跡周辺は相馬ヶ原扇状地を基盤とする地形に立地しており、縄文時代早期以前の遺跡はほとんどみられず、縄文時代を通じて遺跡の数も少ない。また、弥生時代や古墳時代の集落は小規模なものが多く、奈良・平安時代以降に集落域が拡大する傾向がある。したがって、本遺跡に関わる奈良・平安時代～中世までの概要を記す。

【奈良・平安時代】

本遺跡の約 2 km 北東にあたる前橋市元総社町は上野国府推定域（60）となっており、その周辺地域である染谷川と天王川に挟まれた扇状地上では、谷地形沿いの微高地に集落が分布する傾向がある。

本遺跡が立地する菅谷町周辺の微高地では、8 世紀の住居跡は少なく、9 世紀から 10 世紀において住居数が増加する。9 世紀代の住居跡を中心とする遺跡として、菅谷遺跡（5）や菅谷高畑遺跡 1（2）、菅谷石塚Ⅱ遺跡（10）、菅谷万年貝戸遺跡（8）などが挙げられ、菅谷高貝戸遺跡 1（3）や菅谷村東遺跡（6）では、それぞれ 100 軒以上の住居跡が検出されている。菅谷高貝戸遺跡 1 は、8 世紀代の住居が数軒であるのに対して、9 世紀代の住居跡は 100 軒を超える。9 世紀代の住居跡には、八花鏡が出土した住居跡や壁立建物と推定される住居跡が含まれるほか、住居跡を区画したとみられる同時期の溝が複数検出されている。菅谷村東遺跡も 8 世紀後半の住居跡が数軒であるのに対して、9 世紀後半から 10 世紀前半の住居跡が住居跡総数の半数以上を占めている。また南方に目を向けると、正観寺遺跡群（13）や正観寺弁財遺跡（18）、小八木志志貝戸遺跡（19）、中尾遺跡（48）で微高地上に当該期の集落が展開する。小八木志志貝戸遺跡では、

8世紀第2～第3四半期の掘立柱建物群や、居宅の可能性のある区画溝が検出された。さらに、本遺跡の北西では棟高遺跡群（21）や棟高辻久保遺跡（22）、北東では引間六石遺跡（26）や引間松葉遺跡（36・37）、塚田中原遺跡（30・31）、塚田村東遺跡（32・33・34・35）、塚田村前遺跡（28・29）などで8世紀代～10世紀代の住居跡が多数検出されており、概ね9世紀後半以降に住居数が増加する傾向がある。棟高遺跡群は、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけて集落の継続性が認められ、遺跡群内の棟高水窪Ⅱ遺跡では、9世紀前半の鍛冶遺構から瓦塔片が出土している。

当該期の流通に関わる遺構としては、東山道駅路の存在が注目される。本遺跡の南方では、発掘調査によって寺ノ内遺跡、御布呂遺跡、熊野堂遺跡、西浦南遺跡（56）、福島飛地遺跡（57）、菅谷石塚遺跡（9）、正観寺遺跡群〇区（15）、高貝戸遺跡（4）、鳥羽遺跡（47）等で道路状遺構が検出されており、これらが東山道「国府ルート」と推定されている³。また高貝戸遺跡において、9世紀中頃の住居跡を掘り込んで道路状遺構が確認されていることから、「国府ルート」は9世紀後半以降に成立したと考えられている（若狭1987）。東山道に関係する可能性がある遺物として、菅谷高貝戸遺跡1（3）では住居跡から「路」と墨書された須恵器坏が出土した。同様の事例は菅谷遺跡（5）でもみられ、「路」と墨書された土師器坏が確認されている。

生産域は水田跡の調査例が多く、帯状の微高地に隣接する谷地形に展開する。菅谷石塚遺跡では、調査範囲の南側を中心にA s－C混土水田・H r－F A下水田・A s－B下水田が検出され、継続した土地利用が捉えられる。また、これに隣接する正観寺西原遺跡（16）のほか、小八木志志貝戸遺跡（19）、正観寺遺跡群（13）、正観寺八木境遺跡（17）、棟高辻久保遺跡でもA s－B下水田が検出されており、生産域の広がりが認められる。畠跡は、塚田中原遺跡（30）や塚田村東Ⅳ遺跡（35）でA s－B層で埋没する畠が検出されている。

【中世】

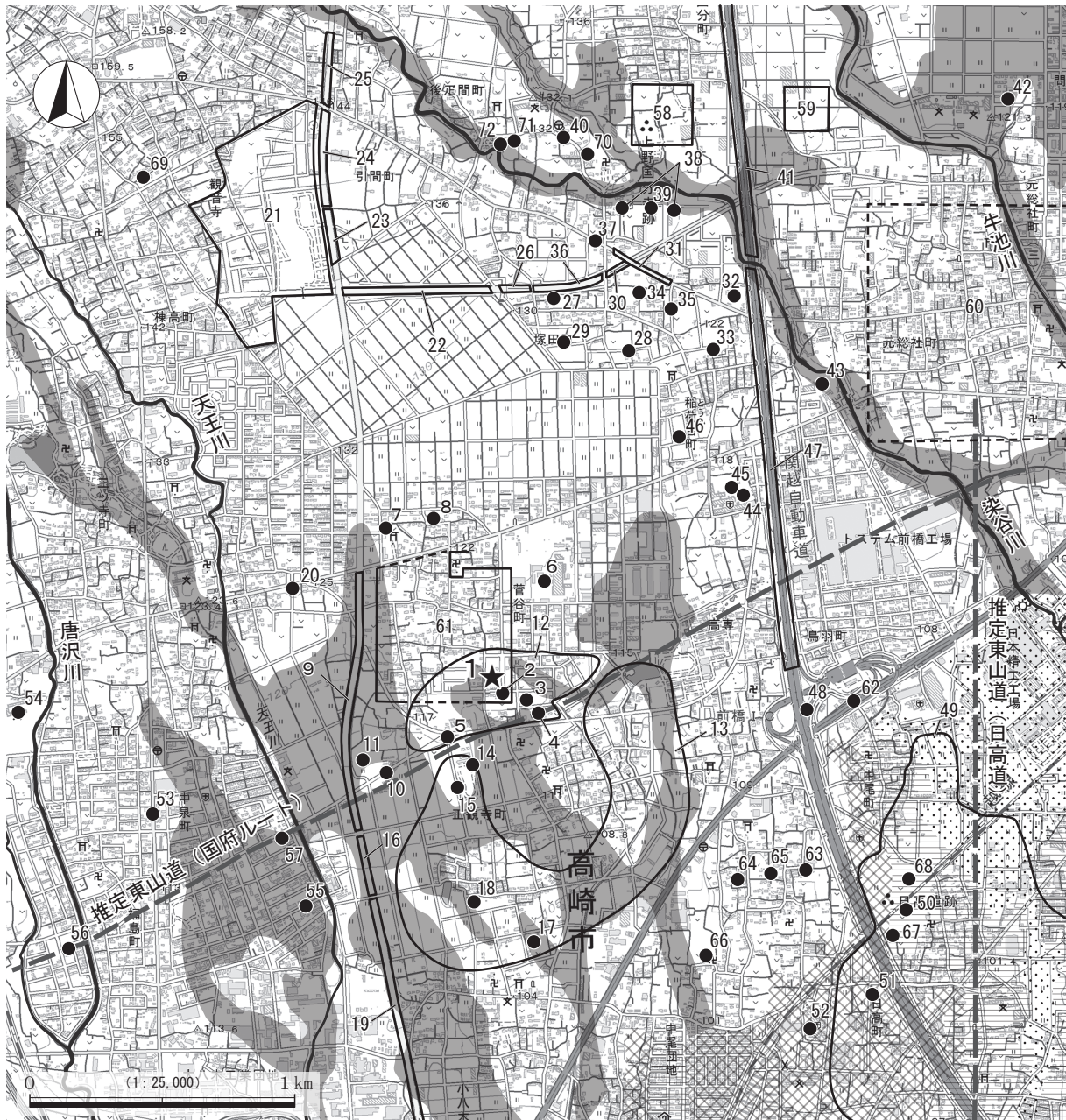
本遺跡周辺では、14世紀～16世紀に築城された城跡・館跡が確認されている。14世紀代のものとしては、中尾城（63）、中尾所之免遺跡（64）、中尾村東館址（68）、鳥羽遺跡（47）が挙げられる。中尾城は東西130m、南北130mの本郭が推定されている。鳥羽遺跡では、二重の堀を巡らせた「回字形」の館跡が確認され、14世紀から15世紀に機能していたと推定されている。16世紀代のものとしては、本遺跡周辺で菅谷城（61）、本遺跡南方で金尾城（62）、黒崎屋敷（65）、小八木新井屋敷（66）、上日高屋敷（67）が挙げられる。菅谷城は、上杉家文書『関東幕注文』や『菅谷福田家文書』に記述がみられ、長野吉業が築城したと伝えられる。築造年代は具体的には明らかなでないものの、少なくとも16世紀には城が存在したと推定されている（山崎1972）。菅谷町字堀之内地内周辺では、北側や東側で堀跡や土居による一辺50mの正方形区画がみられ、本郭であると想定されている。またこのほか、西側で大外廓の堀跡が確認されている。

生産域としては菅谷石塚遺跡が挙げられ、標高の高い北側を中心に中世～近世の畠跡が見つっている。

墓域は、小八木志志貝戸遺跡で約100基の墓群（火葬跡・集石墓・土坑墓等）が検出された。また、墓群の南側で居館とみられる濠・溝跡や幹線道路状遺構が確認されており、当該期における土地利用の一端が窺われる。

註

- 1 相馬ヶ原扇状地堆積物上部と呼ばれる（早田2018）。この堆積物は、利根川右岸の元総社地域を中心にみられる「総社砂層」に相当するものである。
- 2 『菅谷石塚遺跡』（神谷・檜崎2003）、『菅谷村東遺跡』（宮田・吉田2011）、『棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡』（田辺2008）でそれぞれ埋没谷が報告されている。
- 3 東山道駅路は、『推定東山道』（若狭1987）及び『日本古代道路事典』（古代交通研究会2004）を引用・参考した。



1. 菅谷高畑遺跡 2. 菅谷高畑遺跡 1 3. 菅谷高貝戸遺跡 1 4. 高貝戸遺跡 5. 菅谷遺跡 6. 菅谷村東遺跡 7. 菅谷中西遺跡 8. 菅谷万年貝戸遺跡 9. 菅谷石塚遺跡 10. 菅谷石塚Ⅱ遺跡 11. 菅谷古墳群 12. 菅谷遺跡群 13. 正観寺遺跡群 14. 正観寺諏訪廻遺跡 15. 正観寺遺跡群O区 16. 正観寺西原遺跡 17. 正観寺八木境遺跡 18. 正観寺弁財遺跡 19. 小八木志貝戸遺跡 20. 棟高東弥三郎街道遺跡 21. 棟高遺跡群 22. 棟高辻久保遺跡 23. 西三社免遺跡 24. 小池遺跡 25. 諏訪西遺跡 26. 引間六石遺跡 27. 塚田の場遺跡 28. 塚田村前遺跡 29. 塚田村前Ⅱ遺跡 30. 塚田中原遺跡 31. 塚田中原遺跡O区 32. 塚田村東遺跡 33. 塚田村東Ⅱ・稲荷台村北遺跡 34. 塚田村東Ⅲ遺跡 35. 塚田村東Ⅳ遺跡 36. 引間松葉遺跡 37. 引間松葉遺跡Ⅲ区 38. 国分寺参道遺跡 39. 元総社西川遺跡 40. 後疋間遺跡 41. 上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡 42. 総社甲稲荷塚大道西遺跡 43. 弥勒遺跡 44. 稲荷台北金尾遺跡 45. 稲荷台北金尾遺跡2 46. 稲荷台南遺跡 47. 鳥羽遺跡 48. 中尾遺跡 49. 日高遺跡 50. 上日高町山谷遺跡 51. 日高中堀添遺跡 52. 中尾村前遺跡 53. 権現原遺跡 54. 中林遺跡 55. 諸口遺跡 56. 西浦南遺跡 57. 福島飛地遺跡 58. 国分僧寺跡 59. 国分尼寺跡 60. 上野国府推定域 61. 菅谷城 62. 金尾城 63. 中尾城 64. 中尾所之免遺跡 65. 黒崎屋敷 66. 小八木新井屋敷 67. 上日高屋敷 68. 中尾村東館址 69. 棟高平石遺跡 70. 引間妙見遺跡 71. 引間古屋敷 72. 後疋間元屋敷遺跡

第3図 周辺の遺跡

Ⅲ 調査の方法と経過

1. 調査の方法

発掘調査では、試掘調査の結果に基づいてバックホー 0.25 m³により表土掘削をした。その後、ジョレン・移植ゴテ等を使用し、人力で遺構確認と掘削を行った。遺構調査では、必要に応じて土層観察用のベルトを設定し、埋没状態を確認した。遺構の測量は、平面図はトータルステーションを用い、断面図は手実測で作成した。測量に用いた基準点は、GNSS による観測で設置し、座標は世界測地系を使用した。遺構写真は、35 mmモノクロネガフィルム・35 mmカラーリバーサルフィルム・デジタル一眼レフカメラ NikonD5500 (2416 万画素) を使用し、遺跡全体はドローン (Dji Phantom3) により空中写真撮影を実施した。

整理作業では、遺構図面の修正を行い、第二次原図を作成した。出土遺物は、水洗・注記後に溶剤系接着剤 (セメダインC) を使い接合し、エポキシ系樹脂バイサムを用いて欠損部分を補強した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラ NikonD750 で撮影をした。遺構図及び遺物実測図トレースは Adobe Illustrator CS6、写真加工は Adobe Photoshop CS6、版組は Adobe InDesign CS6 を使用した。

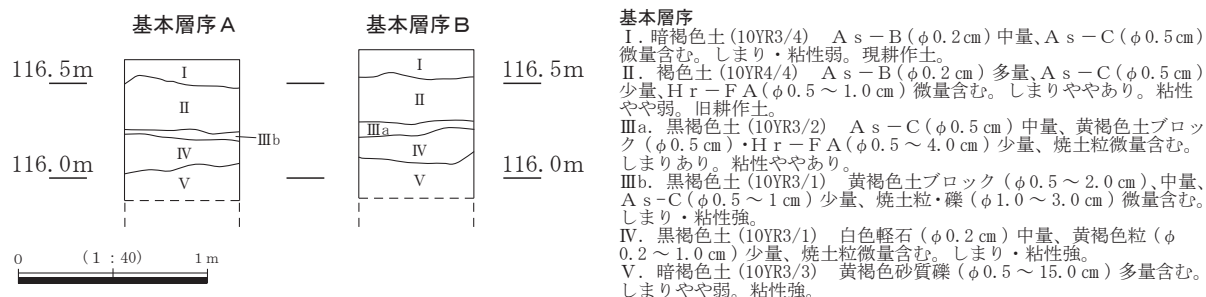
2. 調査の経過

発掘調査は、平成 30 年 10 月 22 日～11 月 1 日の間に行った。10 月 22 日：重機搬入。表土除去を行い、完了後に重機搬出。仮設トイレの設置。発掘器材搬入。24 日：発掘補助員動員。基準点設置。遺構確認後、遺構掘削作業を開始。30 日：遺構掘削作業を完了。31 日：清掃作業後、調査区の空撮を実施。遺構記録作業の完了。発掘器材撤収。11 月 1 日：高崎市教育委員会による現地調査の終了確認。

整理調査は、平成 30 年 11 月 5 日～平成 31 年 4 月 30 日の間に行った。11 月期：遺構記録の基礎整理。12 月期：第二次原図の作成。1 月期：遺物の水洗・注記・接合。2 月期：遺物の復元・写真撮影・実測・拓本。遺構図及び遺物実測図のトレース。3 月期：報告書掲載用図版の作成。原稿執筆。4 月期：報告書原稿の入稿。報告書の校正・印刷・製本・刊行。

Ⅳ 基本層序

基本層序は、調査区東壁と北壁で確認した (第 5 図)。Ⅰ・Ⅱ層は A s - B を含む耕作土である。Ⅲ層は A s - C 混土層であるが、部分的に薄く堆積するのみで、大半が耕作によって削平されたとみられる。耕作はⅣ層にまで及んでいた。Ⅳ層は上層～中層で縄文時代中期後葉の土器が出土したことから、遺構の有無を確認するためにトレンチ調査を行った。その結果、当該期の遺構は検出されず、Ⅳ層は遺物包含層であると判断した。Ⅴ層は砂質土で、調査区の東西で礫の粒径やしまり、粘性にやや違いがみられる。遺構の確認面は、Ⅲ a 層及びⅣ層上面である。



第 4 図 基本層序

V 検出された遺構と遺物

1. 遺跡の概要

本遺跡では、基本層序Ⅲa層上面及びⅣ層上面を遺構確認面として調査を行い、平安時代の竪穴建物跡3軒と奈良・平安時代の土坑2基を検出した。このほか、遺構外から縄文時代中期の遺物が出土している。

2. 竪穴建物跡

S I - 1（遺構：第6図／P L . 1、遺物：第8図／第2表／P L . 2）

位置：X = 41970 ~ 41975、Y = -73420 ~ -73430。**主軸方位：**N - 87° - W。**重複：**S I - 2、S K - 2と重複し、土層断面と出土遺物の観察から、本竪穴建物跡が最も古い。**平面形態：**平面規模の1 / 3以上が調査区外に及ぶ。検出範囲から、方形状ないし長方形を呈するとみられる。**規模：**(2.07) m × (1.79) m。**残存深度：**18 cm。**カマド：**東壁に付設され、煙道部をS K - 2に切られている。燃焼部は被熱の痕跡が明瞭でなく、楕円形にやや窪む形状である。袖は残存していなかった。**貯蔵穴：**竪穴南寄りに位置し、不整形を呈する。掘り込みが浅く、底面の凹凸が顕著である。**柱穴：**1基（P 1）検出され、規模は0.40 m × 0.26 m、深さ24 cmを測る。柱痕は確認されず、不整形を呈することから、柱穴となる可能性は低い。**床面の状態：**表面は概ね平坦で、北東コーナー付近がやや高くなる。床面はややしまりがあるが、硬化面は確認されていない。**遺構埋没状態：**H r - F A ・ A s - C ・ 焼土ブロック・炭化物を含む暗褐色土を主体とし、自然埋没と想定される。**掘り方：**基本層序Ⅴ層を底面とする。全体的に掘り込まれ、カマド周辺が高くなる。**遺物出土状態：**覆土中から土師器坏・甕、須恵器坏・瓶類の破片が少量出土し、このうち貯蔵穴周辺から出土した土師器坏（1）と須恵器坏（2）を掲載した。**時期：**出土遺物と重複関係から、平安時代（9世紀前半）に帰属すると考えられる。

S I - 2（遺構：第6・7図／P L . 1、遺物：第8図／第2表／P L . 2）

位置：X = 41970 ~ 41975、Y = -73420 ~ -73430。**主軸方位：**N - 87° - W。**重複：**S I - 1と重複し、土層断面と出土遺物の観察から、本竪穴建物跡が新しい。**平面形態：**平面規模の1 / 2以上が調査区外に及ぶ。検出範囲から、方形状ないし長方形を呈するとみられる。**規模：**(2.57) m × (1.59) m。**残存深度：**14 cm。**カマド：**東壁に付設される。袖は右袖のみ残存し、構築材として灰白色粘土を使用している。灰色粘質土は幅約10 ~ 20 cm、長さ約55 cmの範囲で検出された。また掘り方調査では、灰白色粘土内より補強材とみられる須恵器甕の破片が出土している。**貯蔵穴：**竪穴南東コーナー付近に位置する。平面形態は長方形を呈し、北側に段を有する。**床面の状態：**表面は概ね平坦で、凹凸は少ない。貼床はカマド前面で検出され、炭化物を中量含み、ややしまりがある。**遺構埋没状態：**H r - F A ・ A s - C ・ 焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体とし、自然埋没と想定される。**掘り方：**基本層序Ⅴ層を底面とする。全体的に掘り込まれ、表面の凹凸が顕著である。掘り方には、炭化物や焼土ブロックが多く含まれる。**遺物出土状態：**覆土中から土師器坏・甕、須恵器坏・高台付埴・高台付皿・甕・甌、灰釉陶器の破片が出土し、掘り方からの出土も多い。残存状態の良好な遺物としては、床面直上で出土した須恵器高台付皿（4）と貯蔵穴の覆土下層から正位で出土した須恵器高台付埴（3）が挙げられる。**時期：**出土遺物と重複関係から、平安時代（9世紀中頃）に帰属すると考えられる。

S I - 3（遺構：第7・8図／P L . 2、遺物：第8図／第2表／P L . 2）

位置：X = 41975 ～ 41980、Y = -73415 ～ -73425。**主軸方位：**不明。**平面形態：**平面規模の3／4以上が調査区外に及ぶ。遺構の確認時にほとんど床面が露出しており、竪穴建物跡の大部分は削平された状態であった。検出範囲から、方形状ないし長形状を呈するとみられる。**規模：**5.44 m × (1.27) m。**残存深度：**4 cm。**床面の状態：**表面は概ね平坦である。貼床は、竪穴中央付近を中心に検出され、黄褐色土ブロックを中量～多量含み、ややしまりがある。**遺構埋没状態：**A s - C・焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とし、埋没要因は不明である。**掘り方：**基本層序IV層を底面とする。全体的に掘り込まれ、表面の凹凸が顕著である。**遺物出土状態：**床面上及び掘り方から土師器坏・甕、須恵器坏・坏蓋・瓶類不明品の破片が少量出土し、このうち掘り方から出土した須恵器蓋（1）を掲載した。**時期：**出土遺物から、平安時代（8世紀後半～9世紀前半）に帰属すると考えられる。

3. 土坑（遺構：第8図／第1表／P L . 2）

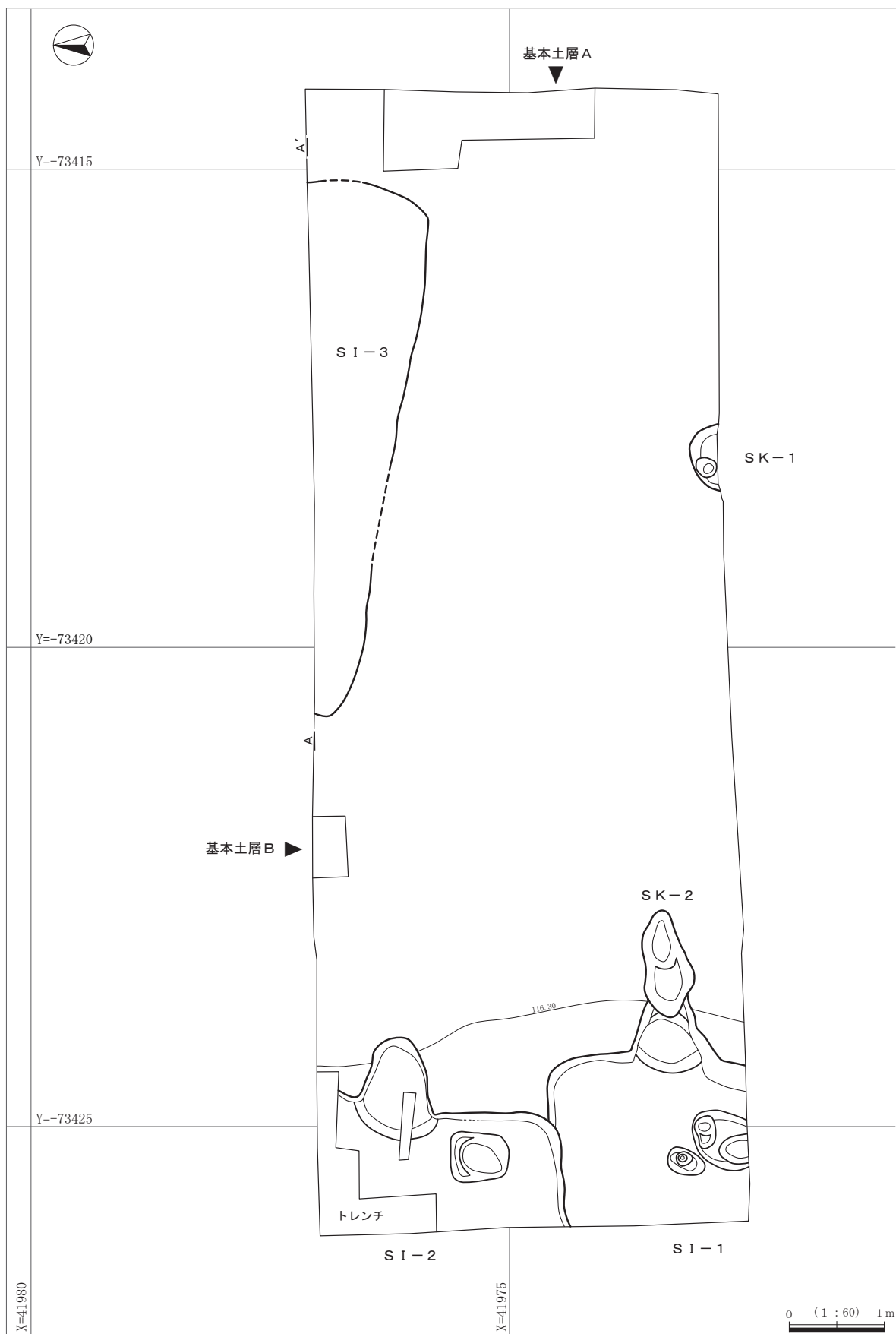
土坑は2基検出された。S K - 1は、平面規模の1／2以上が調査区外に及ぶ。出土遺物と埋没土層から、時期は奈良・平安時代に帰属すると考えられる。S K - 2は、覆土にA s - Bが含まれずS I - 1を切ることから、平安時代以降に帰属すると考えられる。

4. 遺構外出土遺物（遺物：第8図／第2表／P L . 2）

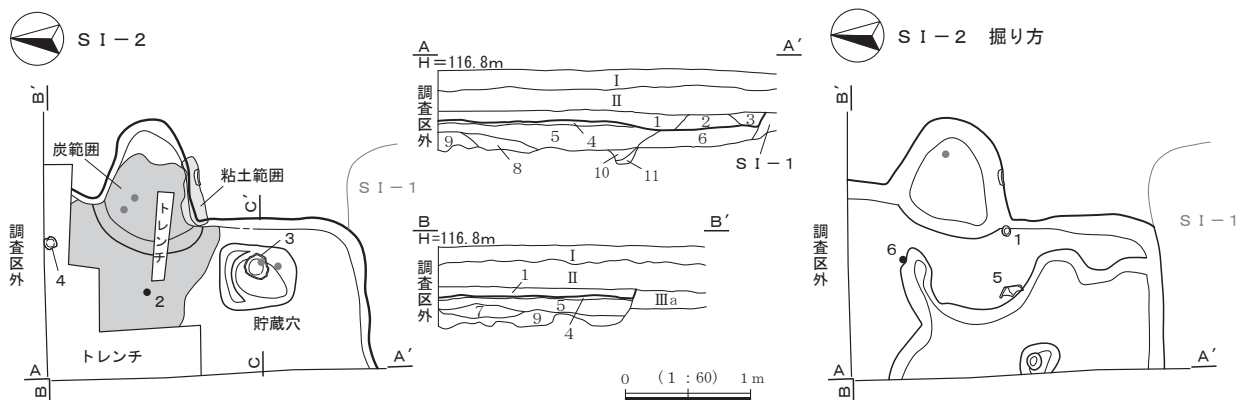
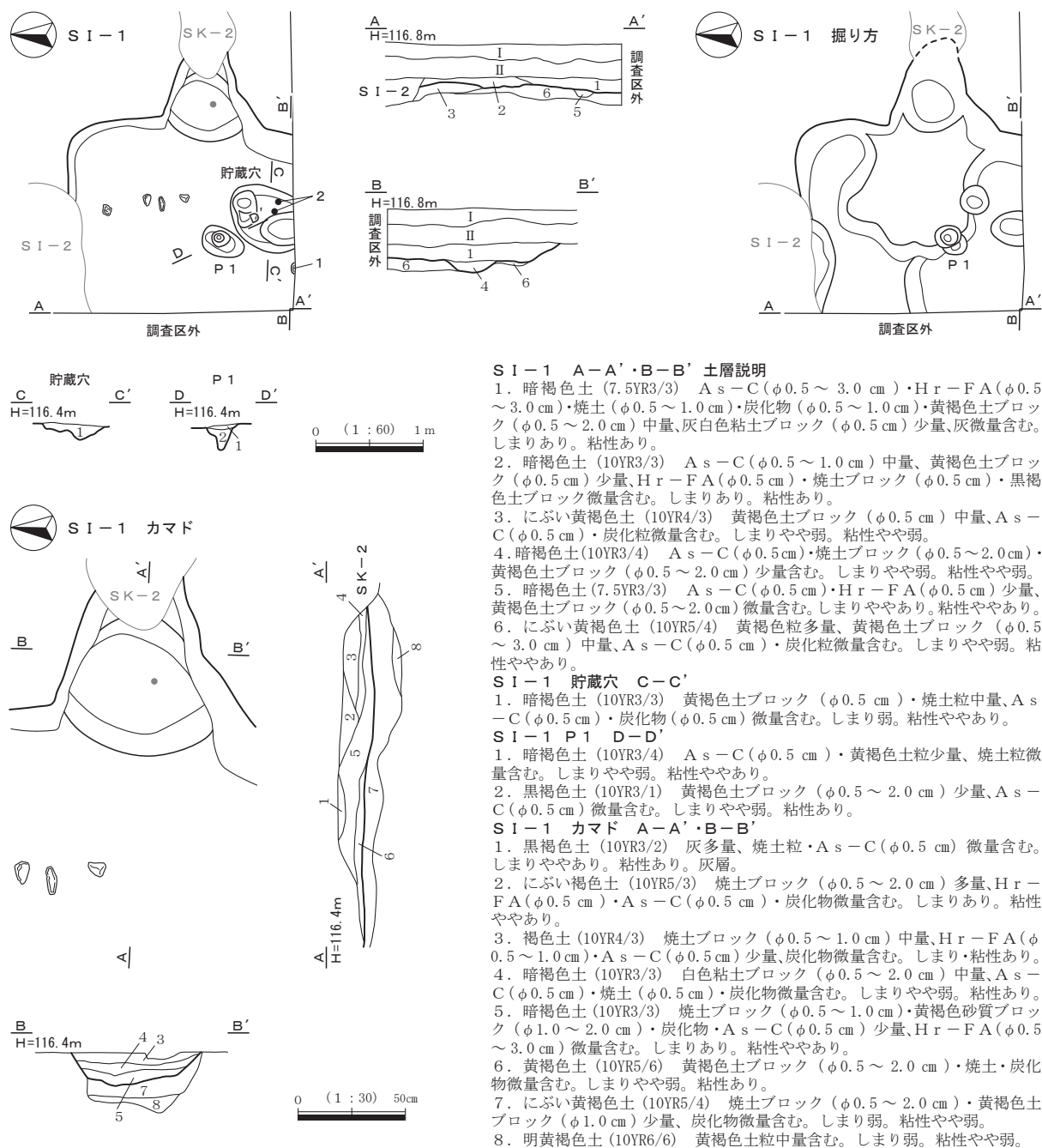
遺物包含層である基本層序IV層からは、縄文時代の土器と打製石斧、石器の剥片が出土しており、このうち5点を遺構外出土遺物として掲載した。1～4は、加曽利EⅢ～EⅣ式期の縄文土器深鉢で、縄文時代中期後葉に帰属する。5の打製石斧もこれらと同時期であると考えられる。

【主な引用・参考文献】

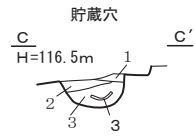
- 伊藤順一 2018「まとめ」『小八木薬研寺遺跡』高崎市教育委員会
神谷佳明・檜崎修一郎 2003『菅谷石塚遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
古代交通研究会 2004『日本古代道路事典』八木書店
坂井隆・宮崎重雄 2001『小八木志志貝戸遺跡群3 中世編』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
沢口宏 1995「地形・地質」『群馬町誌 資料編4 自然』群馬町誌編纂委員会
群馬町誌編纂委員会 2001『群馬町誌 通史編上 原始古代 中世・近世』
早田勉 1990「群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県史編さん委員会
早田勉 2018「付編 自然科学分析」『小八木薬研寺遺跡』高崎市教育委員会
高崎市史編さん委員会 1996『新編高崎市史 資料編3 中世I』高崎市
田辺芳昭 2008『棟高遺跡群 棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡』高崎市教育委員会
田辺芳昭 2015『菅谷遺跡群1』高崎市教育委員会
宮田忠洋・吉田有里 2011『菅谷・村東遺跡』高崎市教育委員会
山崎一 1972『群馬県古城址の研究』下巻 群馬県文化事業振興会
若狭徹 1987『推定東山道』群馬県群馬町教育委員会



第 5 図 調査区全体図



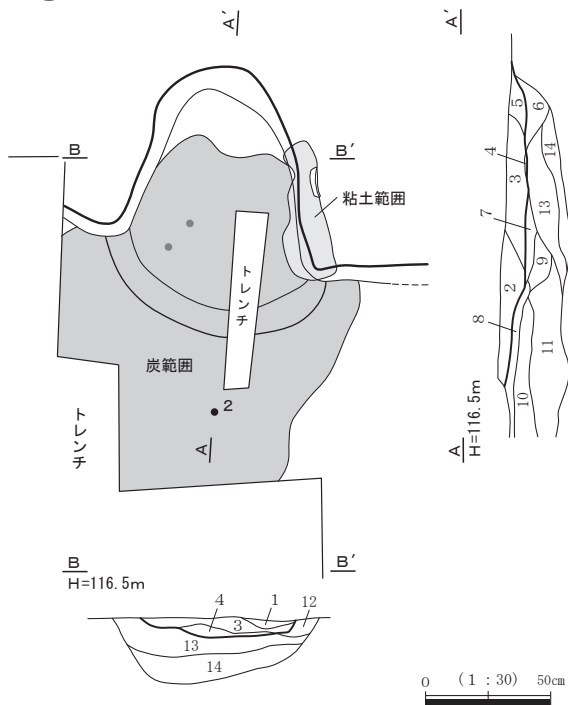
第6図 S I-1・S I-2 (1)



S I-2 A-A'・B-B' 土層説明

1. 暗褐色土 (10YR3/3) $A s-C(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}) \cdot H r-F A(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm})$ 中量、焼土粒少量、炭化粒・灰白色粘土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$) 中量、 $A s-C(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}) \cdot H r-F A(\phi 0.5 \text{ cm})$ 少量含む。しまり・粘性あり。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm}) \cdot H r-F A(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$)・灰白色粘土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$) 少量含む。しまり強。粘性あり。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 3.0 \text{ cm}$)・焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$)・炭化物 ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$)・灰中量、 $A s-C(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm})$ ・灰白色粘土 ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$) 少量、 $H r-F A(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm})$ 微量含む。しまりあり。粘性あり。
5. 暗褐色土 (10YR3/3) $A s-C(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}) \cdot H r-F A(\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm})$ ・黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$)・焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$)・炭化物中量、灰白色粘土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$) 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 黄褐色粒多量、黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 4.0 \text{ cm}$) 中量、白色軽石 ($\phi 0.2 \text{ cm}$)・炭化粒・焼土粒微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。

S I-2 カマド



7. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 4.0 \text{ cm}$) 多量、 $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ 微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
8. 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 4.0 \text{ cm}$) 中量、 $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・焼土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 少量、灰・炭化物 ($\phi 1.0 \text{ cm}$) 微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
9. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 3.0 \text{ cm}$) 中量、灰白色粘土ブロック ($\phi 1.0 \text{ cm}$)・白色軽石 ($\phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$) 微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
10. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 3.0 \text{ cm}$) 少量、 $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・焼土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 微量含む。しまりやや弱。粘性あり。
11. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 5.0 \text{ cm}$) 多量、焼土 ($\phi 1.0 \text{ cm}$) 微量含む。しまり弱。粘性ややあり。

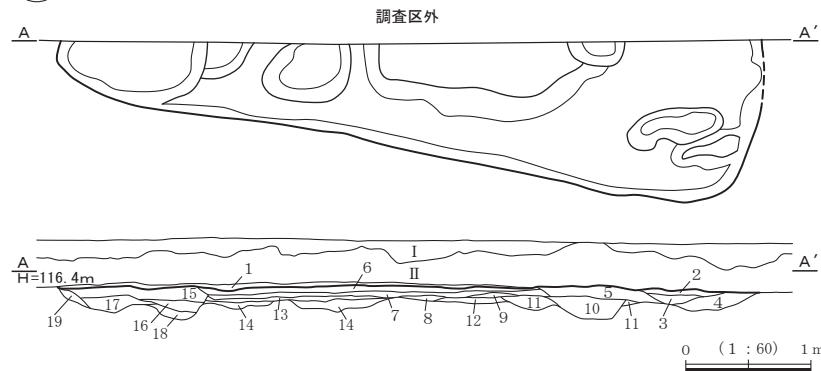
S I-2 貯蔵穴 C-C'

1. 暗褐色土 (10YR3/3) $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ 中量、焼土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$)・炭化物微量含む。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・焼土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$)・炭化物・黄褐色土ブロック ($\phi 1.0 \text{ cm}$) 少量含む。しまりやや弱。粘性あり。

S I-2 カマド A-A'・B-B'

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 白色粘土ブロック ($\phi 1.0 \text{ cm}$)・炭化粒・炭化物・ $H r-F A(\phi 0.3 \text{ cm})$ 微量含む。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・焼土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 少量、炭化物・ $H r-F A(\phi 0.5 \sim 1.5 \text{ cm})$ 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$) 多量、炭化物中量、 $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm}) \cdot H r-F A(\phi 0.5 \text{ cm})$ 少量、白色粘土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 微量含む。しまり・粘性あり。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ 中量、 $H r-F A(\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm})$ 少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまり・粘性あり。
5. 黒褐色土 (10YR2/3) $A s-C(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm})$ 少量、焼土粒 ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 微量含む。しまり強・粘性あり。
6. 暗褐色土 (10YR3/3) $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 少量、焼土粒微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
7. にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$) 中量、炭化物・灰少量、 $A s-C(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm})$ 微量含む。しまりやや弱。粘性あり。
8. 黒褐色土 (10YR3/1) 灰多量、焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$) 少量、炭化物・ $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ 微量含む。しまりやや弱。粘性あり。
9. にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$)・灰多量、 $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm}) \cdot H r-F A(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm})$ 少量含む。しまりやや弱。粘性あり。
10. 暗褐色土 (10YR3/3) $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・焼土粒 ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 少量、炭化物・ $H r-F A(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・白色粘土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 微量含む。しまりやや弱。粘性あり。
11. 灰褐色土 (7.5YR4/2) 焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$)・灰・ $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ 中量、黄褐色土ブロック ($\phi 5.0 \text{ cm}$) 少量、 $H r-F A(\phi 0.5 \text{ cm})$ 微量含む。しまりやや弱。粘性あり。
12. 褐灰色土 (10YR5/1) 白色粘土ブロック ($\phi 3.0 \sim 5.0 \text{ cm}$) 多量、焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$)・炭化物少量、 $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm}) \cdot H r-F A(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm})$ 微量含む。しまり・粘性強。カマド袖の白色粘土貼付け部分。
13. 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$)・黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$) 中量、白色粘土 ($\phi 1.5 \text{ cm}$)・ $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ 少量含む。しまりやや弱。粘性あり。
14. 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$)・黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 少量、炭化物・ $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ 微量含む。しまり弱。粘性あり。

S I-3 掘り方



S I-3 A-A'・B-B' 土層説明 (1)

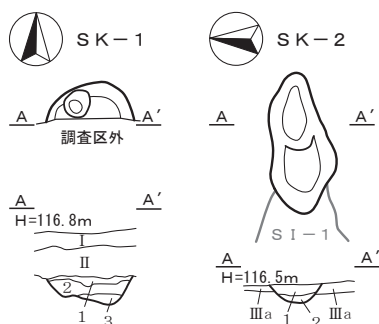
1. 黒褐色土 (10YR3/2) $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・焼土粒少量、黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$)・炭化粒微量含む。しまり・粘性ややあり。
2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 灰中量、 $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm}) \cdot H r-F A(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・焼土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 少量、黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \text{ cm}$) 微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm}) \cdot H r-F A(\phi 0.5 \text{ cm})$ ・黄褐色土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$)・焼土粒少量、炭化物微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
4. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色土ブロック ($\phi 1.0 \sim 3.0 \text{ cm}$)・焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$) 多量、 $A s-C(\phi 0.5 \text{ cm}) \cdot H r-F A(\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm})$ 中量、灰少量含む。しまりあり。粘性やや弱。

第7図 S I-2 (2)・S I-3 (1)

SI-3 A-A'・B-B' 土層説明 (2)

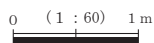
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 焼土粒中量、A s-C (φ0.5 cm)・H r-F A (φ0.5 ~ 2.0 cm)・黄褐色土ブロック (φ0.5 ~ 2.0 cm)・灰少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック (φ0.5 ~ 3.0 cm) 多量、A s-C (φ0.5 cm)・H r-F A (φ0.5 ~ 2.0 cm)・焼土ブロック (φ0.5 ~ 1.0 cm) 少量含む。しまり・粘性ややあり。
7. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック (φ1.0 ~ 15.0 cm) 多量、A s-C (φ0.5 cm) 少量含む。しまりややあり。粘性あり。
8. 灰黄褐色土 (10YR5/2) 焼土粒少量、黄褐色土ブロック (φ0.5 cm) 微量含む。しまりややあり。粘性あり。
9. 8層に同じ。
10. 暗褐色土 (10YR3/3) A s-C (φ0.5 cm)・H r-F A (φ0.5 ~ 1.0 cm)・黄褐色土ブロック (φ1.0 ~ 3.0 cm) 中量、焼土ブロック (φ0.5 cm)・黄褐色土ブロック (φ0.5 cm)・黒褐色粘質土ブロック (φ2.0 cm) 少量、炭化物微量含む。しまり強。粘性ややあり。
11. 褐灰色土 (10YR4/1) 黄褐色土ブロック (φ1.0 ~ 5.0 cm) 多量、A s-C (φ0.5 cm)・焼土粒・黒褐色粘質土ブロック (φ3.0 cm) 少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。

12. 黒褐色土 (10YR3/1) 黄褐色土ブロック (φ0.5 cm)・焼土粒少量、A s-C (φ0.5 cm) 微量含む。しまり・粘性強。
13. 黒褐色土 (10YR3/2) A s-C (φ0.5 cm)・H r-F A (φ0.5 cm) 少量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
14. 黒褐色土 (10YR3/1) 黄褐色土ブロック (φ0.5 ~ 1.0 cm) 中量、A s-C (φ0.5 cm)・H r-F A (φ0.8 cm)・焼土粒少量含む。しまり・粘性強。
15. 暗褐色土 (10YR3/4) A s-C (φ0.5 cm)・H r-F A (φ0.5 ~ 2.0 cm) 中量、黄褐色土ブロック (φ0.5 ~ 3.0 cm)・焼土ブロック (φ0.5 cm)・炭化物少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
16. 暗褐色土 (10YR3/4) A s-C (φ0.5 cm) 少量、H r-F A (φ0.5 ~ 2.0 cm)・黄褐色土ブロック (φ0.5 cm)・炭化物微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
17. 褐灰色土 (10YR4/1) 黄褐色土ブロック (φ1.0 ~ 3.0 cm) 多量、A s-C (φ0.5 cm)・H r-F A (φ0.5 ~ 1.5 cm) 少量、焼土ブロック (φ0.5 cm) 微量含む。しまり・粘性あり。
18. 黒褐色土 (10YR3/1) A s-C (φ0.5 cm)・黄褐色土粒少量、H r-F A (φ0.8 cm)・焼土粒微量含む。しまりあり。粘性強。
19. 黒褐色土 (10YR3/1) 白色軽石 (φ0.2 cm) 中量、黄褐色土粒 (φ0.5 cm) 少量、A s-C (φ0.5 cm)・焼土粒微量含む。しまり・粘性強。



SK-1

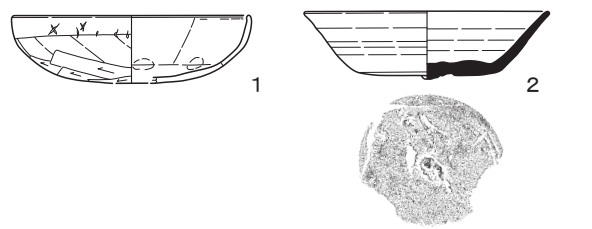
1. 黒褐色土 (10YR3/2) A s-C (φ0.5 cm)・黄褐色土ブロック (φ0.5 ~ 3.0 cm) 少量、A s-B (φ0.2 cm)・焼土粒微量含む。しまりやや弱。粘性あり。
2. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黄褐色土ブロック (φ0.5 cm ~ 5.0 cm) 多量、A s-C (φ0.5 cm) 少量、H r-F A (φ0.5 ~ 1.0 cm)・焼土粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック (φ0.5 cm ~ 3.0 cm) 中量、A s-C (φ0.5 cm) 少量、黄褐色土砂質ブロック (φ0.5 ~ 1.0 cm) 微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。



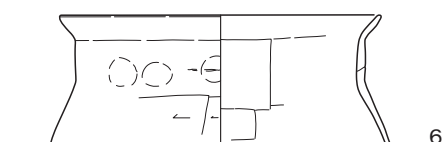
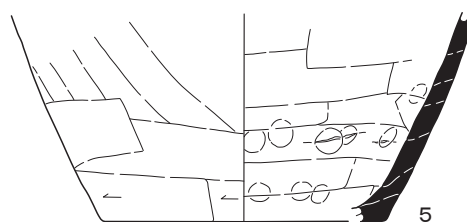
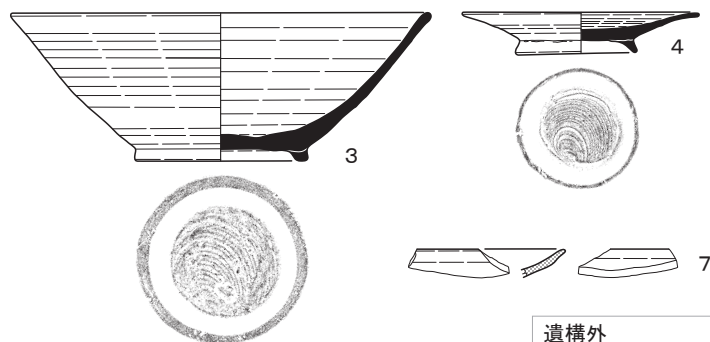
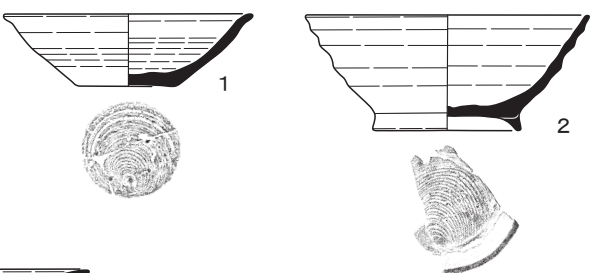
SK-2

1. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 黄褐色土 (φ0.5 cm) 少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性ややあり。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) A s-C (φ0.5 cm)・H r-F A (φ0.5 ~ 1.0 cm)・黄褐色土粒・焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。

SI-1



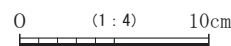
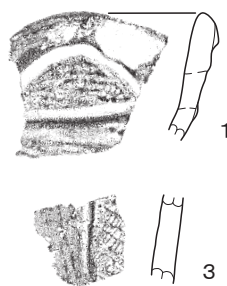
SI-2



SI-3



遺構外



第8図 SI-3 (2)・SK-1・SK-2・出土遺物

第1表 土坑一覧表

遺構名	位置	規模 (m)	残存深度 (cm)	平面形態	断面形態	遺物
S K - 1	X = 41970 ~ 41975 Y = -73415 ~ -73420	0.68 × (0.29)	23	円形	逆台形	須恵器坏片等
S K - 2	X = 41970 ~ 41975 Y = -73420 ~ -73425	1.12 × 0.51	14	不整形	U字形	—

第2表 出土遺物観察表

遺構名	番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土位置	備考
S I - 1	1	土師器 坏	口径:[12.6] 底径:— 器高:[3.6]	①普通 ②外内:にぶ い赤褐色 ③白色粒、 角閃石 ④1/3	外:口縁部ヨコナデ。体部ナデ後 ケズリ。 内:ユビオサエ後ヨコナデ。	覆土中	
	2	須恵器 坏	口径:[13.0] 底径:7.5 器高:3.6	①還元焰焼成 ②外内 :灰白色 ③白色粒、 角閃石 ④1/3	外:ロクロ整形。底部回転筥ケズ リ後ナデ。 内:ロクロ整形。	覆土中	
S I - 2	1	須恵器 坏	口径:[13.2] 底径:5.2 器高:3.8	①還元焰焼成 ②外内 :灰白色 ③黒色粒、 片岩 ④1/3	外:ロクロ整形。底部回転糸切後 無調整。 内:ロクロ整形。	掘り方 覆土中	ロクロ右 回転。
	2	須恵器 高台付埴	口径:[15.0] 底径:[7.8] 器高:6.1	①還元焰焼成 ②外内 :黄灰色 ③白色粒 ④1/2	外:ロクロ整形。底部回転糸切後 高台貼付。 内:ロクロ整形。	覆土中	ロクロ右 回転。
	3	須恵器 高台付埴	口径:[22.2] 底径:9.2 器高:7.9	①還元焰焼成 ②外内 :灰色 ③白色粒、片 岩 ④1/3	外:ロクロ整形。底部回転糸切後 高台貼付。 内:ロクロ整形。	貯蔵穴 覆土中	ロクロ右 回転。
	4	須恵器 高台付皿	口径:12.6 底径:6.4 器高:2.3	①還元焰焼成 ②外内 :灰 ③白色粒、黒色 粒 ④3/4	外:ロクロ整形。底部回転糸切後 高台貼付。 内:ロクロ整形。自然釉。	床面直上	ロクロ右 回転。
	5	須恵器 甕か	口径:— 底径:[15.0] 器高:—	①還元焰焼成 ②外内 :灰色 ③石英 ④胴 部下位 1/4	外:下位ヨコケズリ後上位ヨコナ デ。 内:ユビオサエ後ヨコナデ。	掘り方 覆土中	
	6	土師器 甕	口径:[17.0] 底径:— 器高:—	①普通 ②外内:にぶ い赤褐色 ③角閃石、 白色粒 ④口縁~胴部 上位破片	外:口縁部ユビオサエ後ヨコナデ。 胴部上位ヨコケズリ。 内:筥ナデ。	掘り方 覆土中	
	7	灰釉陶器 皿	口径:— 底径:— 器高:—	①良好 ②外内:灰白 色、灰オリーブ色 ③ 黒色粒 ④口縁部破片	外:ロクロ整形。灰釉。 内:ロクロ整形。灰釉。	貯蔵穴 覆土中	施釉方法 は不明。
S I - 3	1	須恵器 蓋	口径:[17.0] 底径:— 器高:—	①還元焰焼成 ②外内 :灰白色 ③石英 ④ 口縁部破片	外:ロクロ整形。 内:ロクロ整形。	掘り方 覆土中	
遺構外	1	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	①普通 ②外:にぶ い橙色、内:灰黄褐色 ③角閃石、石英、赤色 粒 ④口縁部破片	LR 単節縄文施文後隆帯貼付。 隆帯脇に幅広の沈線文。波状口縁。	調査区一括	
	2	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	①普通 ②外内:にぶ い黄橙色 ③石英、角 閃石 ④口縁部破片	口縁部に沿って沈線文。	調査区一括	
	3	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	①普通 ②外内:にぶ い黄橙色 ③石英、角 閃石 ④胴部破片	LR 単節縄文施文後隆帯貼付。 隆帯脇に幅狭の沈線文。	調査区一括	
	4	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	①普通 ②外内:にぶ い橙色 ③石英 ④口 縁部破片	縦条線文施文。	調査区一括	
	5	石器 打製石斧	長さ:(6.5)、幅:4.4、厚さ:1.6、重さ:61.03g。石材:安山岩。剥片を 素材とし、二側縁に直接打撃による両面加工が施される。刃部周辺には摩耗 痕や刃こぼれが認められる。中央~基部欠損。			S I - 1 床面直上	

写真図版



調査区遠景（東から）



調査区全景（上が南）



S I - 1 全景（西から）



S I - 1 貯蔵穴遺物出土状態（北から）



S I - 1 掘り方全景（西から）



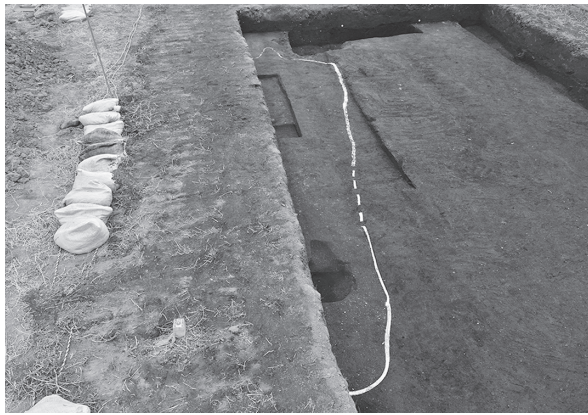
S I - 2 全景・遺物出土状態（西から）



S I - 2 貯蔵穴遺物出土状態（西から）



S I - 2 掘り方全景（西から）



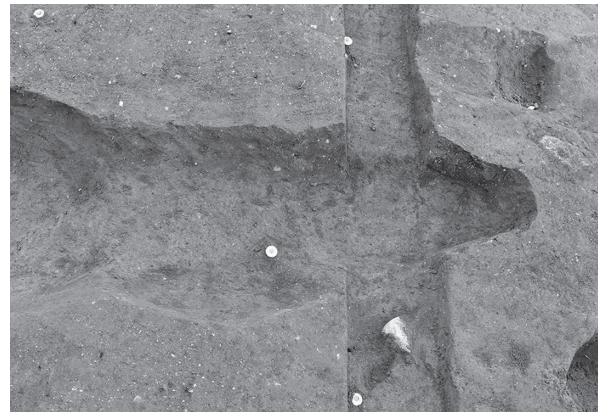
S I-3 全景（北西から）



S I-3 土層断面（南から）



SK-1 全景（北から）



SK-2 全景（南から）

S I-1

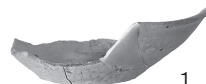


1



2

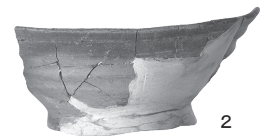
S I-2



1



4



2



3

S I-3



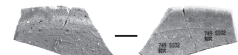
1



5



6



7

遺構外



1



2



3



4



5



5

出土遺物

報告書抄録

フリガナ	スガヤタカハタイセキ 2
書名	菅谷高畑遺跡 2
副書名	開発道路築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 432 集
編著者名	春里桃子 宮本久子
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒 379-2146 群馬県前橋市公田町 1002 番地 1 TEL 027-265-1804
発行機関	有限会社 毛野考古学研究所
発行年月日	平成 31 年 4 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
すが や たかはた いせき に 菅谷高畑遺跡 2	ぐん ま けん た か さ き し 群馬県高崎市 すが や ま ち あ さ た か は た 菅谷町字高畑 あざむらまえ 824-1、字村前 834-1・3	10202	749	36° 22′ 32″	139° 00′ 54″	20181022 } 20181101	60㎡	開発道路築造

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
菅谷高畑遺跡 2	集落	平安時代	竪穴建物跡 3 軒	土師器、須恵器、灰釉陶器	
		奈良・平安時代	土坑 2 基		
	包蔵地	縄文時代（中期）		縄文土器、石器	

高崎市文化財調査報告書第 432 集

菅谷高畑遺跡 2

－開発道路築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

平成31年 4 月 19 日印刷

平成31年 4 月 30 日発行

編集／有限会社 毛野考古学研究所
発行／有限会社 毛野考古学研究所
印刷／朝日印刷工業株式会社